

令和3年度 歯科疾患の受診者数及び医療費の動向 —う蝕、歯肉炎・歯周疾患、歯及び歯の支持組織の障害—

令和5年7月
健康保険組合連合会
政策部 調査分析グループ

【調査の概要】

本調査は、1,308組合提供の診療報酬明細書（レセプト）データをもとに、令和3年度における歯科疾患（う蝕、歯肉炎・歯周疾患、歯及び歯の支持組織の障害）の受診者数及び医療費の動向をとりまとめたものです。

【調査結果のポイント】

1. 歯科（消化器系疾患）の医療費の概況

（医療費及び構成割合）

- 疾病分類医療費計（医科・歯科（消化器系疾患）計：3兆2,649億円）のうち、歯科（消化器系疾患）は疾病分類中、最も高く、5,382億円と医療費全体の16.5%。

（対前年度比伸び率）

- 歯科計と歯科（消化器系疾患）は、ともに5.8%の増加となった。

2. 歯科3疾患の受診状況

（加入者1,000人当たり受診者数（年度平均））

- 歯肉炎・歯周疾患が116.1人と最も多く、次いで、う蝕：12.5人、歯及び歯の支持組織の障害：8.1人。

3. 歯科3疾患の医療費の動向

（医療費及び構成割合）

- 歯科（消化器系疾患）（5,382億円）のうち、歯肉炎及び歯周疾患が13.9%（4,535億円）と最も高く、次いで、う蝕：1.3%（423億円）、歯及び歯の支持組織の障害：1.2%（400億円）。

（対前年度比伸び率）

- 歯肉炎・歯周疾患：6.6%、歯及び歯の支持組織の障害：3.4%、う蝕：0.3%の増加。

（受診者1人当たり医療費）

- 歯及び歯の支持組織の障害が1万5,175円と最も高く、次いで、歯肉炎・歯周疾患：1万1,971円、う蝕：1万358円。

目次

本調査における留意点、用語の定義	3
1. 疾病 19 分類でみた歯科（消化器系疾患）の動向	
(1) 医療費の概況	6
(2) 加入者 1 人当たり医療費及び伸び率	8
(3) 加入者 1,000 人当たり受診者数（年度平均）	10
2. 歯科 3 疾患の受診状況	
(1) 加入者 1,000 人当たり受診者数（年度平均）	12
(2) 年齢階層別にみた受診者数（年度平均）及び構成割合	13
(3) 歯科 3 疾患別 加入者 1,000 人当たり受診者数（年度平均）	15
3. 歯科 3 疾患医療費の動向	
(1) 医療費の概況	16
(2) 受診者 1 人当たり医療費	18
(3) 年齢階層別にみた歯科 3 疾患医療費	19

本調査における留意点、用語の定義

1. 統計上の歯科疾患の取り扱い

調査対象の疾患は、診療区分の「歯科計」のうち、「消化器系疾患」及び「歯科3疾患」（①う蝕、②歯肉炎及び歯周疾患、③歯及び歯の支持組織の障害）とした。

歯科計のうち、「消化器系疾患」を対象としているのは、疾病19分類中、当該分類が疾病分類医療費（歯科）の97.5%を占め、かつ、①う蝕、②歯肉炎及び歯周疾患、③歯及び歯の支持組織の障害—の歯科主要3疾患が計上されていることによる。表記については、便宜上、「歯科（消化器系疾患）」とした。

なお、「消化器系疾患」の疾患別医療費構成割合は、▽う蝕：7.9%、▽歯肉炎及び歯周疾患：84.3%、▽歯及び歯の支持組織の障害：7.4%、▽その他：0.4%—となっており、①～③の主要3疾患で99.6%を占める。

また、統計処理の関係上、疾病医療費の合計が必ずしも一致しない場合がある。

2. 調査対象1,308組合の医療費データ及び加入者数

1,308組合の診療報酬明細書（レセプト）のデータを集計対象とした。また、対前年度比伸び率の算出にあたっては、1,308組合のうち、データ提供のあった令和3年度と2年度同一の1,235組合を集計対象としている。なお、医科及び歯科、歯科3疾患の各医療費には調剤医療費は含まれていない。

1) 令和3年度医療費：1,308組合

	レセプト件数（件）	医療費総額（円）
計	304,088,875	4,312,599,274,190
医科	157,738,440	2,851,065,457,200
歯科	46,499,971	554,940,620,980
調剤	99,850,464	906,593,196,010

加入者数

1,308組合	加入者数（人）
計	27,191,747
本人	15,829,097
家族	11,362,758

2) 対前年度比伸び率：1,235 組合（令和 3 年度と 2 年度の両年度同一組合）

1,235 組合	レセプト件数（件）		医療費総額（円）	
	令和 3 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
計	275,970,787	254,920,788	3,917,857,551,280	3,618,038,749,890
医科	143,221,260	132,217,063	2,592,519,990,330	2,363,024,587,550
歯科	42,205,304	39,084,305	503,824,278,770	476,391,718,490
調剤	90,544,223	83,619,420	821,513,282,180	778,622,443,850

加入者数

1,235 組合	加入者数（人）	
	令和 3 年度	令和 2 年度
計	24,739,379	24,951,643
本人	14,438,671	14,433,025
家族	10,300,811	10,518,672

3. 用語の定義

① 加入者 1 人当たり医療費

当該年度の医療費を、当該年度の平均加入者数（各月末の加入者数の和を 12 で除したものの）で除したものの。

② 受診率（1,000 人当たりレセプト件数）

当該年度のレセプト件数を、当該年度の平均加入者数（各月末の加入者数の和を 12 で除したものの）で除し 1,000 倍したものの。

③ レセプト 1 件当たり日数

当該年度の診療実日数をレセプト件数で除したものの。

④ 1 日当たり医療費

当該年度の医療費を診療実日数で除したものの。

⑤ 加入者 1 人当たり医療費と医療費 3 要素分解

加入者 1 人当たり医療費は、受診率、1 件当たり日数、1 日当たり医療費の積に分解することができる。

（※加入者 1 人当たり医療費＝受診率×1 件当たり日数×1 日当たり医療費）

⑥ 平均受診者数（年度平均）

当該年度の各月の受診者数の和を 12 で除したものの。

これは、組合提供の月別の医療費データは集計値であり、受診者数については当該月に報告のあった受診者数に他の月と同一の受診者が計上される場合があることから、当該年度の集計にあたっては、各月の受診者数を累計した値を 12 で除した推計値を用いている。

⑦ 加入者 1,000 人当たり受診者数

当該年度の受診者数を、当該年度の平均加入者数（各月末の加入者数の和を 12 で除したものの）で除し 1,000 倍したものの。

⑧ 受診者 1 人当たり医療費

当該年度の医療費を、当該年度の平均受診者数で除したものの。

なお、上記①の加入者 1 人当たり医療費は、加入者 1 人当たり受診者数、受診者 1 人当たり医療費に分解することができる。

（※加入者 1 人当たり医療費＝加入者 1 人当たり受診者数×受診者 1 人当たり医療費）

1. 疾病 19 分類でみた歯科（消化器系疾患）の動向

(1) 医療費の概況

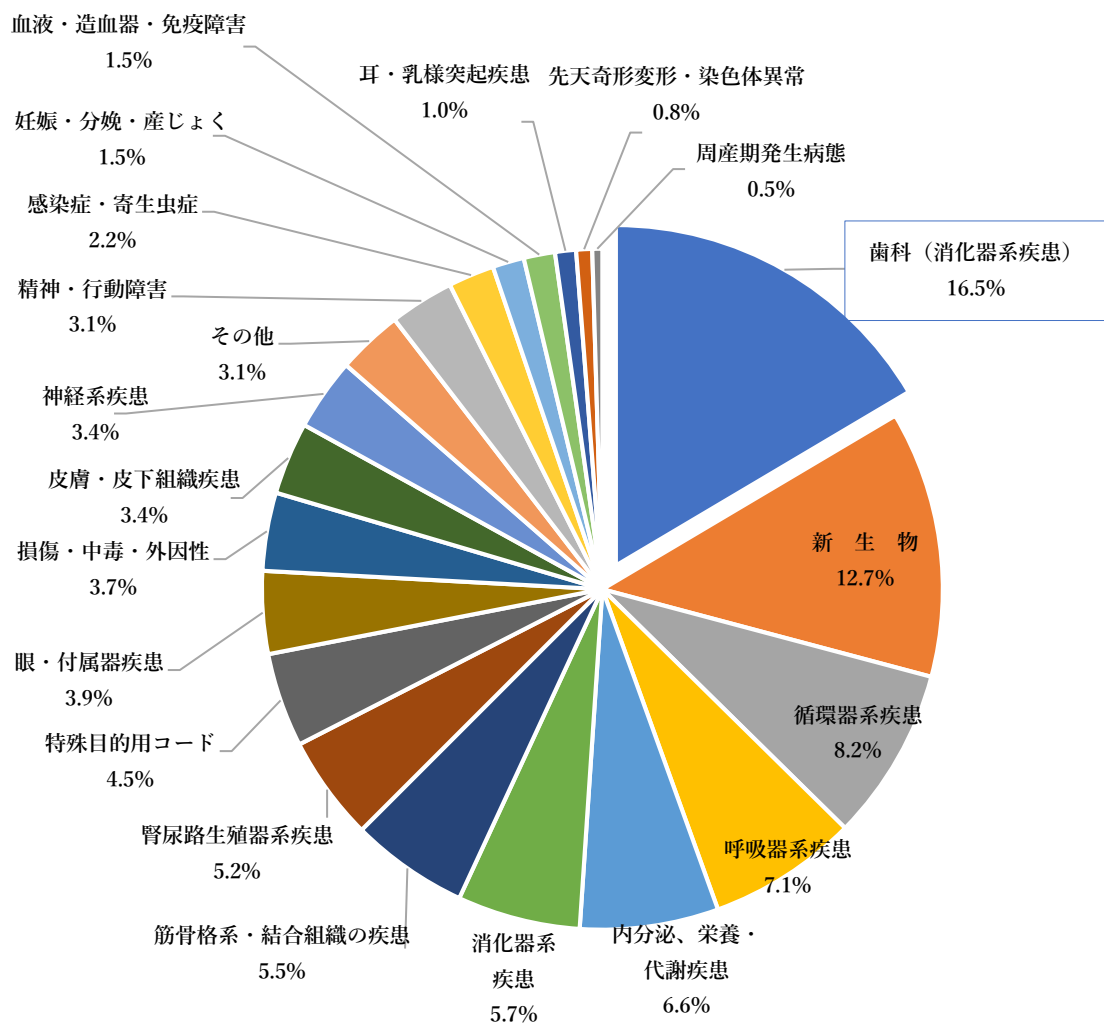
① 医療費及び構成割合

- 疾病分類医療費計（医科及+歯科（消化器系疾患）計：3兆2,649億円）のうち、歯科（消化器系疾患）の医療費は疾病分類中、最も高く医療費全体の16.5%（5,382億円）を占める。

令和3年度 医療費及び構成割合

1,308 組合	医療費（円）	構成割合（%）
疾病分類【計】（医科・歯科（消化器系疾患））	3,264,855,587,640	(100.0)
うち、歯科（消化器系疾患）	538,190,903,150	16.5

令和3年度 疾病分類別 医療費構成割合
【医科+歯科（消化器系疾患）計】



② 対前年度比伸び率

- 医科計は9.7%と大きく増加し、歯科計と歯科（消化器系疾患）はともに5.8%の増加となった。

対前年度伸び率：1,235 組合（1,308 組合のうち令和3年度と2年度同一組合）

1,235 組合	伸び率 (%)
医科・歯科【計】	9.1
医科【計】	9.7
歯科【計】	5.8
歯科（消化器系疾患）	5.8

参考：疾病分類別医療費構成割合（前年度調査との比較） (%)

疾病分類名	令和3年度 (1,308 組合)	(参考) 2年度調査 (1,250 組合)
歯科（消化器系疾患）	16.5	16.8
新生物	12.7	13.5
循環器系疾患	8.2	8.7
呼吸器系疾患	7.1	6.9
内分泌・栄養・代謝疾患	6.6	6.9
消化器系疾患	5.8	6.1
筋骨格系・結合組織疾患	5.6	5.8
腎尿路生殖器系疾患	5.0	5.3
特殊目的用コード	4.5	1.1
眼・付属器疾患	3.9	4.1
損傷・中毒・外因性	3.7	3.9
皮膚・皮下組織疾患	3.4	3.7
神経系疾患	3.4	3.5
その他	3.1	2.6
精神・行動障害	3.1	3.2
感染症・寄生虫症	2.2	2.4
妊娠・分娩・産じょく	1.5	1.7
血液・造血器・免疫障害	1.5	1.6
耳・乳様突起疾患	1.0	1.0
先天奇形変形・染色体異常	0.8	0.8
周産期発生病態	0.5	0.5

注) 円グラフ及び表中の「その他」は、「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」、「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」、「不詳」である（以下、同じ）。

(2) 加入者1人当たり医療費及び伸び率

① 加入者1人当たり医療費

○ 歯科（消化器系疾患）は、疾病分類中最も高く、1万9,792円となっている。

令和3年度 疾病分類別加入者1人当たり医療費



② 対前年度比伸び率

- 6.7%の増加。要因として、1件当たり日数は▲5.0%の減少となったが、受診率が9.0%と大きく増加したほか、1日当たり医療費が2.6%増加した。

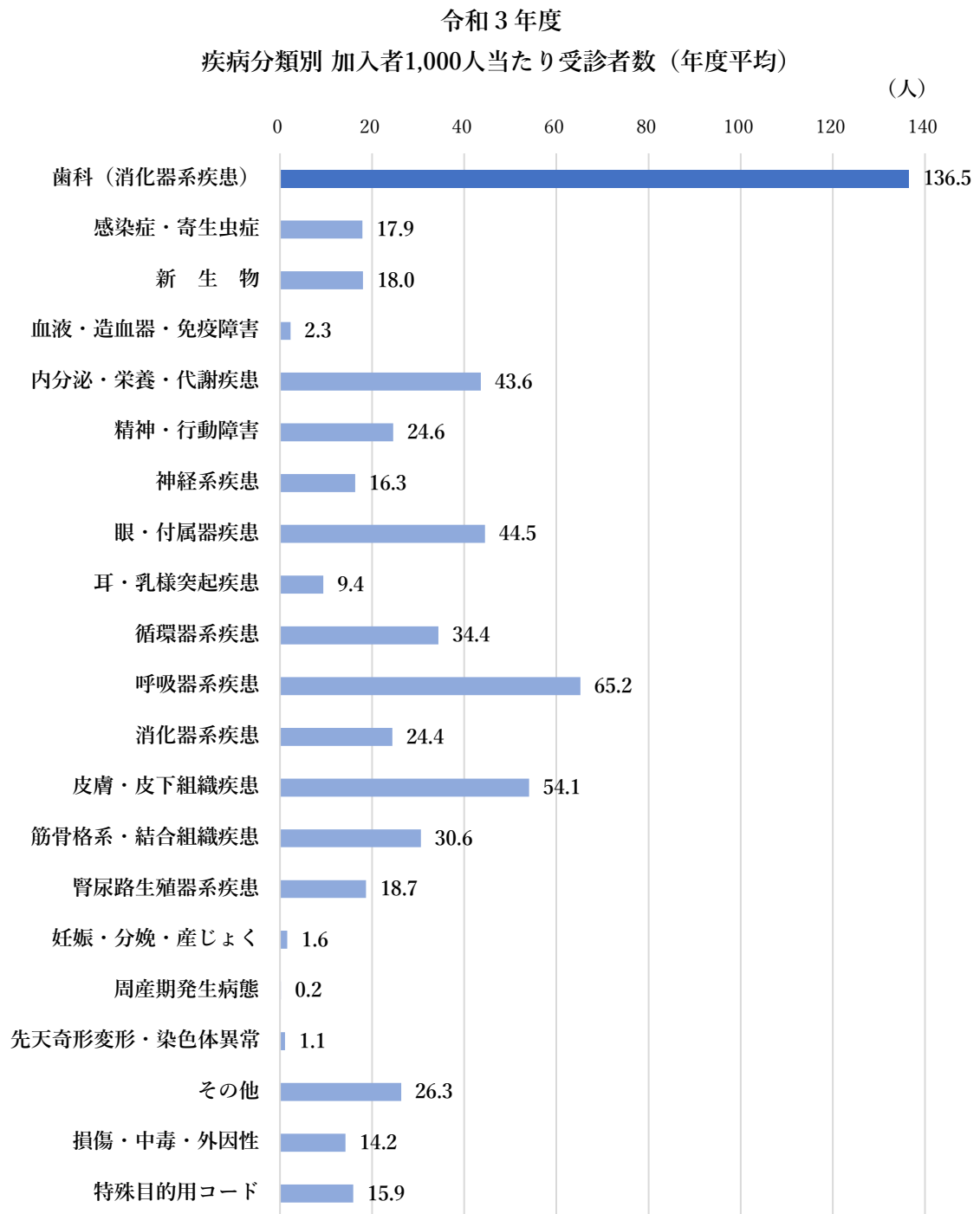
令和3年度 対前年度比伸び率（※両年度同一の1,235組合ベース） (%)

疾病分類名	加入者1人当たり 医療費 ¹	受診率	1件当たり 日数	1日当たり 医療費
歯科（消化器系疾患）	6.7	9.0	▲ 5.0	2.6
感染症・寄生虫症	1.1	1.0	▲ 1.9	1.9
新 生 物	3.4	6.8	▲ 3.4	0.1
血液・造血器・免疫障害	3.9	8.6	▲ 4.0	▲ 0.5
内分泌・栄養・代謝疾患	4.3	7.8	▲ 1.6	▲ 1.5
精神・行動障害	3.9	8.4	▲ 2.5	▲ 1.7
神経系疾患	7.4	8.3	▲ 2.7	1.6
眼・付属器疾患	5.5	4.4	0.0	1.5
耳・乳様突起疾患	11.6	10.2	▲ 0.7	1.7
循環器系疾患	3.7	5.2	▲ 0.8	▲ 0.7
呼吸器系疾患	13.6	4.5	0.8	7.5
消化器系疾患	5.8	7.2	▲ 2.1	0.6
皮膚・皮下組織疾患	3.8	0.6	0.0	3.5
筋骨格系・結合組織疾患	5.4	8.7	▲ 1.0	▲ 2.2
腎尿路生殖器系疾患	3.4	11.4	▲ 2.2	▲ 4.7
妊娠・分娩・産じょく	▲ 1.1	▲ 2.5	▲ 0.3	2.0
周産期発生病態	9.0	10.2	0.7	▲ 1.8
先天奇形変形・染色体異常	3.6	8.5	▲ 2.5	▲ 2.5
他に分類されないもの	13.0	25.6	▲ 2.9	▲ 7.1
損傷・中毒・外因性	4.2	9.6	▲ 3.2	▲ 1.6
特殊目的用コード	-	-	▲ 2.9	▲ 4.4

¹ 加入者1人当たり医療費＝受診率×1件当たり日数×1日当たり医療費

(3) 加入者 1,000 人当たり受診者数 (年度平均)

○ 疾病 19 分類中、最も多く、136.5 人となっている。



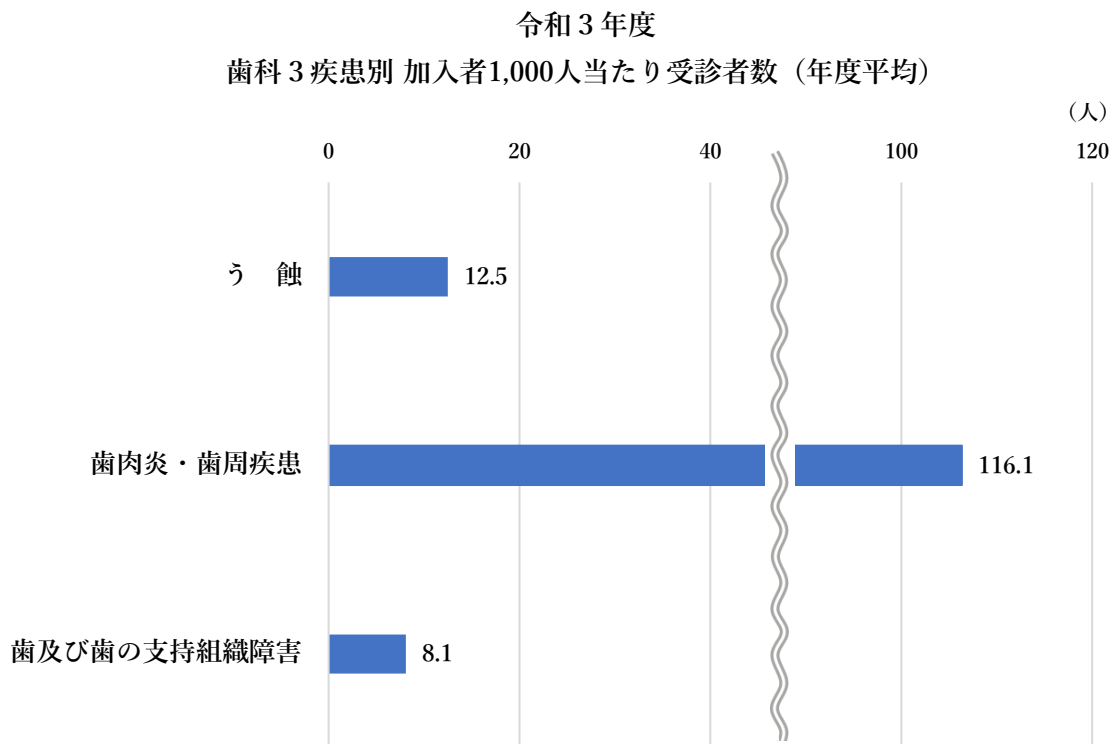
令和3年度 疾病分類別 受診者数（年度平均）及び加入者1,000人当たり受診者数

1,308 組合	受診者数（年度平均） （人）	加入者1,000人当たり 受診者数（人）
歯科（消化器系疾患）	3,711,117	136.5
感染症・寄生虫症	486,380	17.9
新生物	489,533	18.0
血液・造血器・免疫障害	62,345	2.3
内分泌・栄養・代謝疾患	1,185,146	43.6
精神・行動障害	669,500	24.6
神経系疾患	443,204	16.3
眼・付属器疾患	1,209,963	44.5
耳・乳様突起疾患	254,867	9.4
循環器系疾患	934,610	34.4
呼吸器系疾患	1,773,599	65.2
消化器系疾患	663,859	24.4
皮膚・皮下組織疾患	1,470,740	54.1
筋骨格系・結合組織疾患	833,253	30.6
腎尿路生殖器系疾患	507,937	18.7
妊娠・分娩・産じょく	42,800	1.6
周産期発生病態	5,482	0.2
先天奇形変形・染色体異常	29,461	1.1
その他	715,510	26.3
損傷・中毒・外因性	385,952	14.2
特殊目的用コード	431,087	15.9

2. 歯科3疾患の受診状況

(1) 加入者1,000人当たり受診者数(年度平均)

- 歯肉炎・歯周疾患が116.1人と最も多く、次いで、う蝕：12.5人、歯及び歯の支持組織の障害：8.1人。



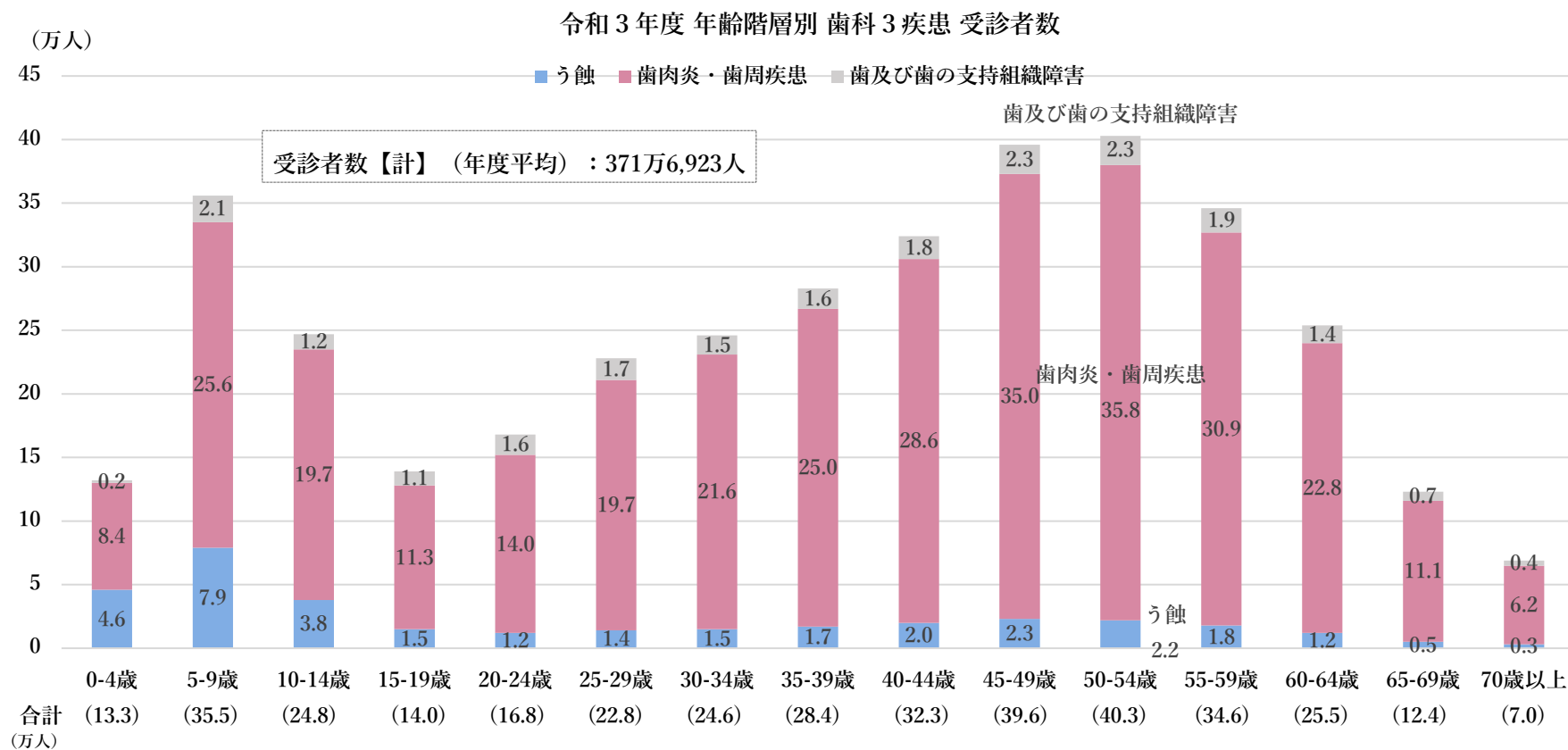
令和3年度 受診者数及び加入者1,000人当たり受診者数

1,308組合	受診者数(年度平均) (人)	加入者1,000人当たり 受診者数(人)
う蝕	340,368	12.5
歯肉炎・歯周疾患	3,156,721	116.1
歯及び歯の支持組織の障害	219,835	8.1

(2) 年齢階層別にみた受診者数（年度平均）及び構成割合

① 受診者数（年度平均）

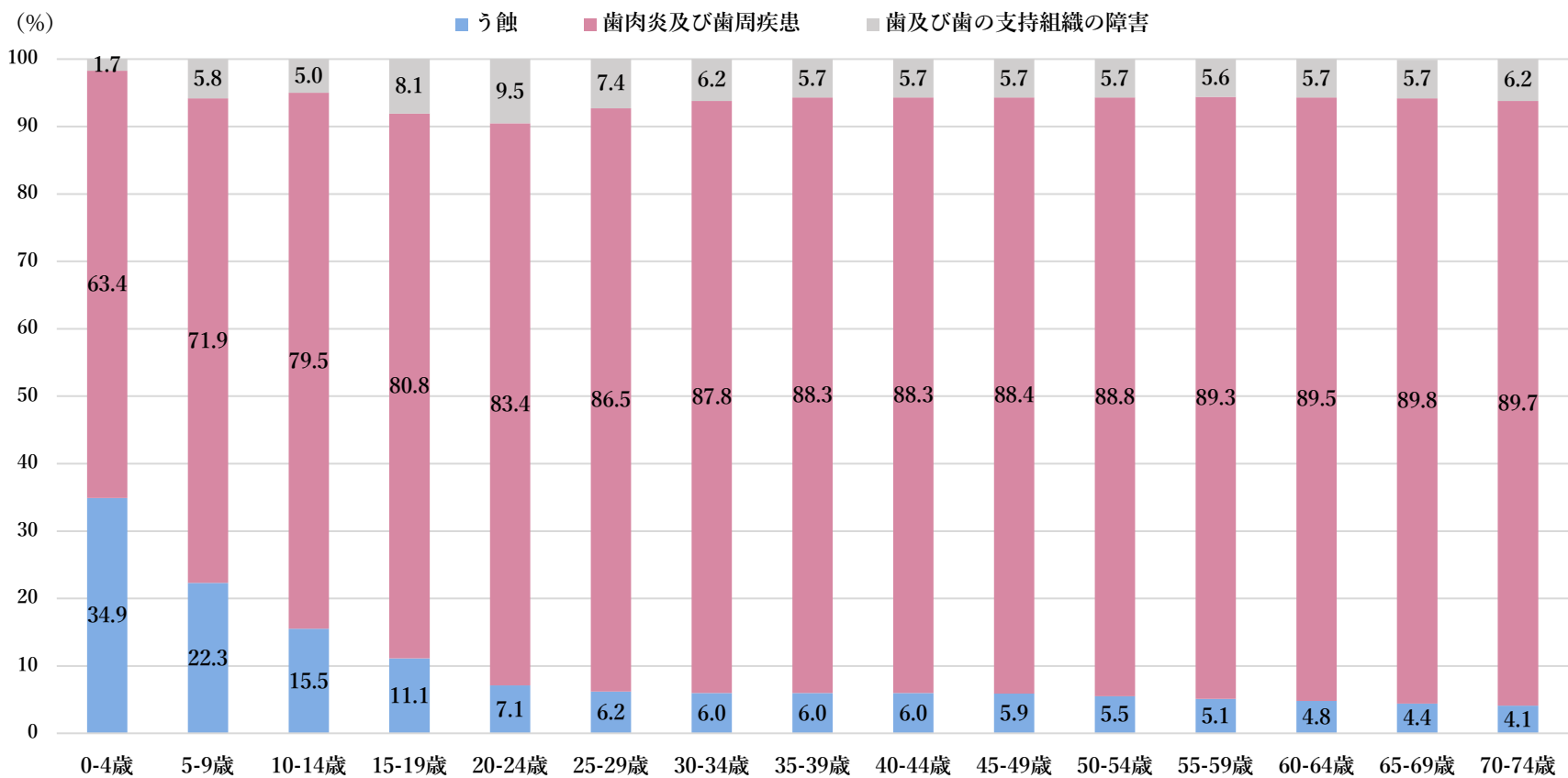
- 受診者総数（積み上げ）では50-54歳（40.3万人）が最も多く、次いで、45-49歳（39.6万人）、5-9歳（35.5万人）。
- 総数が最も多い50-54歳の構成をみると、歯肉炎及び歯周疾患（35.8万人）が最も多く、次いで、歯及び歯の支持組織の障害（2.3万人）、う蝕（2.2万人）。



② 構成割合

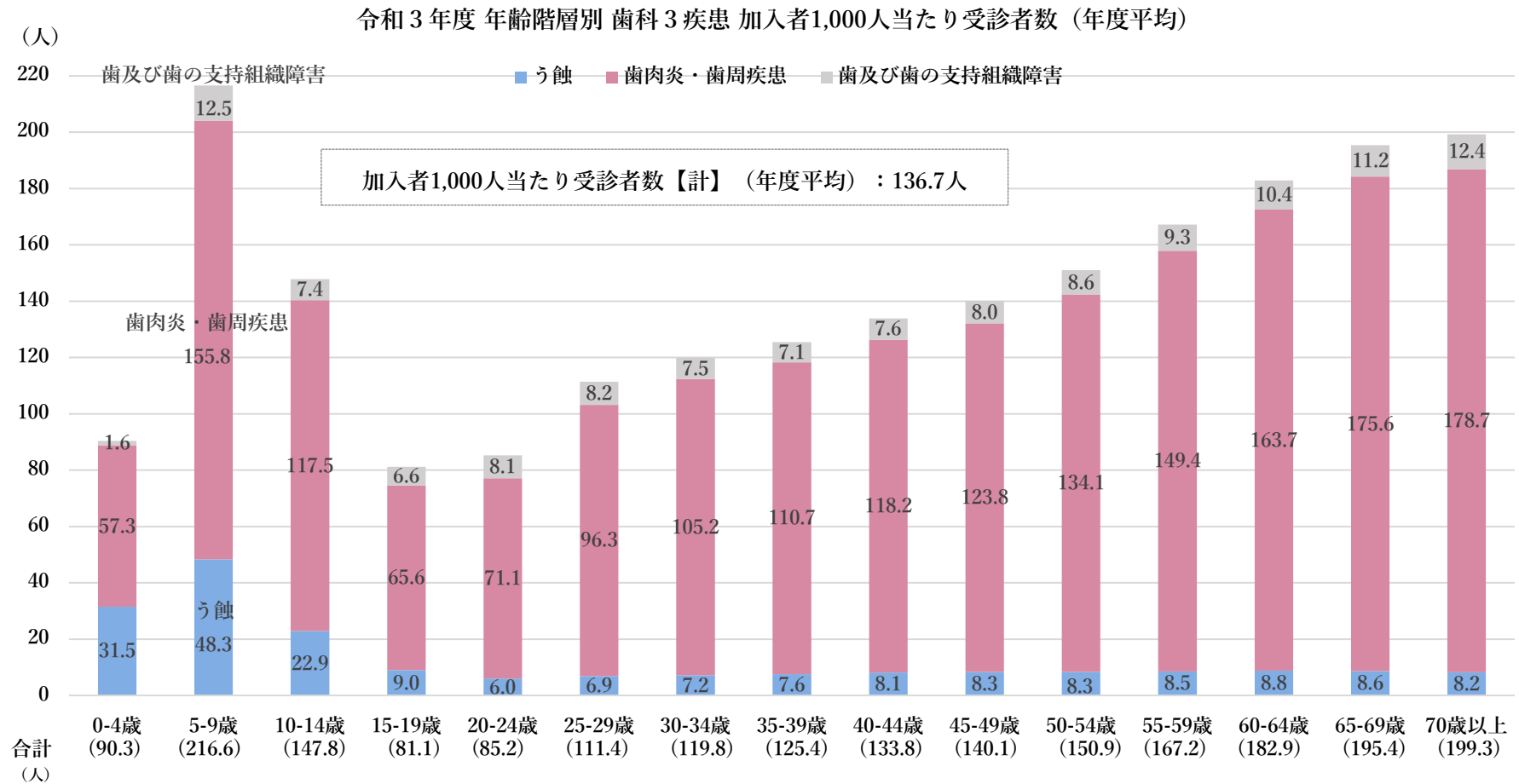
- 20歳未満では、う蝕の受診者が10%以上を占め、とくに0-4歳は34.9%、5-9歳は22.3%と20%を超えている。
- 20歳以降では、歯肉炎及び歯周疾患の受診者が80%以上を占め、とくに65-69歳：89.8%、70-74歳：89.7%、60-64歳：89.5%と高齢層が高い。

令和3年度 年齢階層別 歯科3疾患 受診者数 構成割合 (%)



(3) 歯科3疾患 加入者1,000人当たり受診者数(年度平均)

- 歯科3疾患の受診者総数(積み上げ)では5-9歳:216.6人が最も多く、次いで、70-74歳:199.3人、65-69歳:195.4人。
- 総数の最も多い5-9歳の構成をみると、歯肉炎及び歯周疾患:155.8人が最も多く、次いで、う蝕:48.3人、歯及び歯の支持組織の障害:12.5人。



3. 歯科3疾患の医療費の動向

(1) 医療費の概況

① 医療費及び構成割合

- 歯科（消化器系疾患）（5,382億円）のうち、歯肉炎及び歯周疾患が13.9%（4,535億円）と最も高く、次いで、う蝕：1.3%（423億円）、歯及び歯の支持組織の障害：1.2%（400億円）。

令和3年度 医療費及び構成割合

1,308 組合	医療費（円）	構成割合（%）
疾病分類【計】（医科・歯科（消化器系疾患））	3,264,855,587,640	100.0
歯科（消化器系疾患）	538,190,903,150	16.5
う蝕	42,304,526,870	1.3
(再掲) 歯肉炎及び歯周疾患	453,485,648,350	13.9
歯及び歯の支持組織の障害	40,032,246,950	1.2

② 対前年度比伸び率

- 歯肉炎・歯周疾患：6.6%、歯及び歯の支持組織の障害：3.4%、う蝕：0.3%—といずれも増加。

令和3年度 対前年度比伸び率（※両年度同一の1,235組合ベース）

1,235 組合	伸び率（%）
う蝕	0.3
歯肉炎・歯周疾患	6.6
歯及び歯の支持組織の障害	3.4

③ 歯科3疾患別 加入者1人当たり医療費及び3要素

【加入者1人当たり医療費】

- 歯肉炎・歯周疾患が1万6,677円と最も高い。

【受診率】

- 歯肉炎・歯周疾患が1,401.2件と最も高い。

【1件当たり日数】

- 歯及び歯の支持組織の障害が1.9日と最も長い。

【1日当たり医療費】

- 歯及び歯の支持組織の障害が7,897円と最も高く、次いで、歯肉炎・歯周疾患：7,817円。

令和3年度 加入者1人当たり医療費及び3要素

1,308 組合	加入者1人当たり 医療費(円)	受診率 (件/千人)	1件当たり 日数(日)	1日当たり 医療費(円)
う蝕	1,556	150.5	1.4	7,353
歯肉炎・歯周疾患	16,677	1,401.2	1.5	7,817
歯及び歯の支持組織の障害	1,472	98.7	1.9	7,897

④ 加入者1人当たり医療費及び3要素の対前年度比伸び率

- 歯肉炎・歯周疾患：7.5%増加。要因として、1件当たり日数が▲5.0%減少したものの、受診率が10.4%と大きく増加したほか、1日当たり医療費が2.3%増加した。
- 歯及び歯の支持組織の障害：4.3%増加。1件当たり日数が▲3.6%減少したものの、1日当たり医療費が5.3%、受診率が3.0%それぞれ増加した。

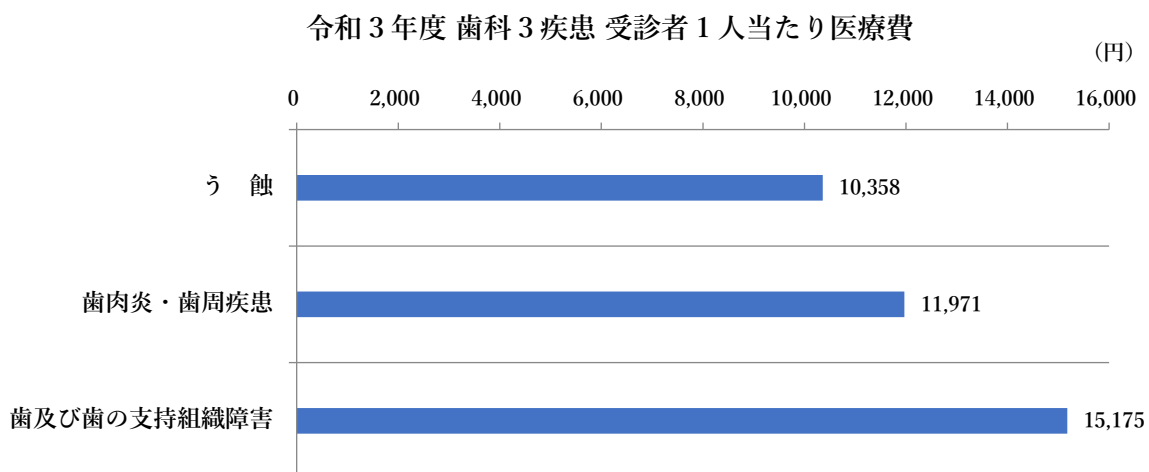
令和3年度 対前年度伸び率（※両年度同一の1,235組合ベース）

(%)

1,235 組合	加入者1人当たり 医療費	受診率	1件当たり 日数	1日当たり 医療費
う蝕	1.2	1.8	-2.8	2.3
歯肉炎・歯周疾患	7.5	10.4	-5.0	2.3
歯及び歯の支持組織の障害	4.3	3.0	-3.6	5.3

(2) 受診者1人当たり医療費

- 歯及び歯の支持組織の障害が1万5,175円と最も高く、次いで、歯肉炎・歯周疾患：1万1,971円、う蝕：1万358円。



令和3年度 受診者1人当たり医療費

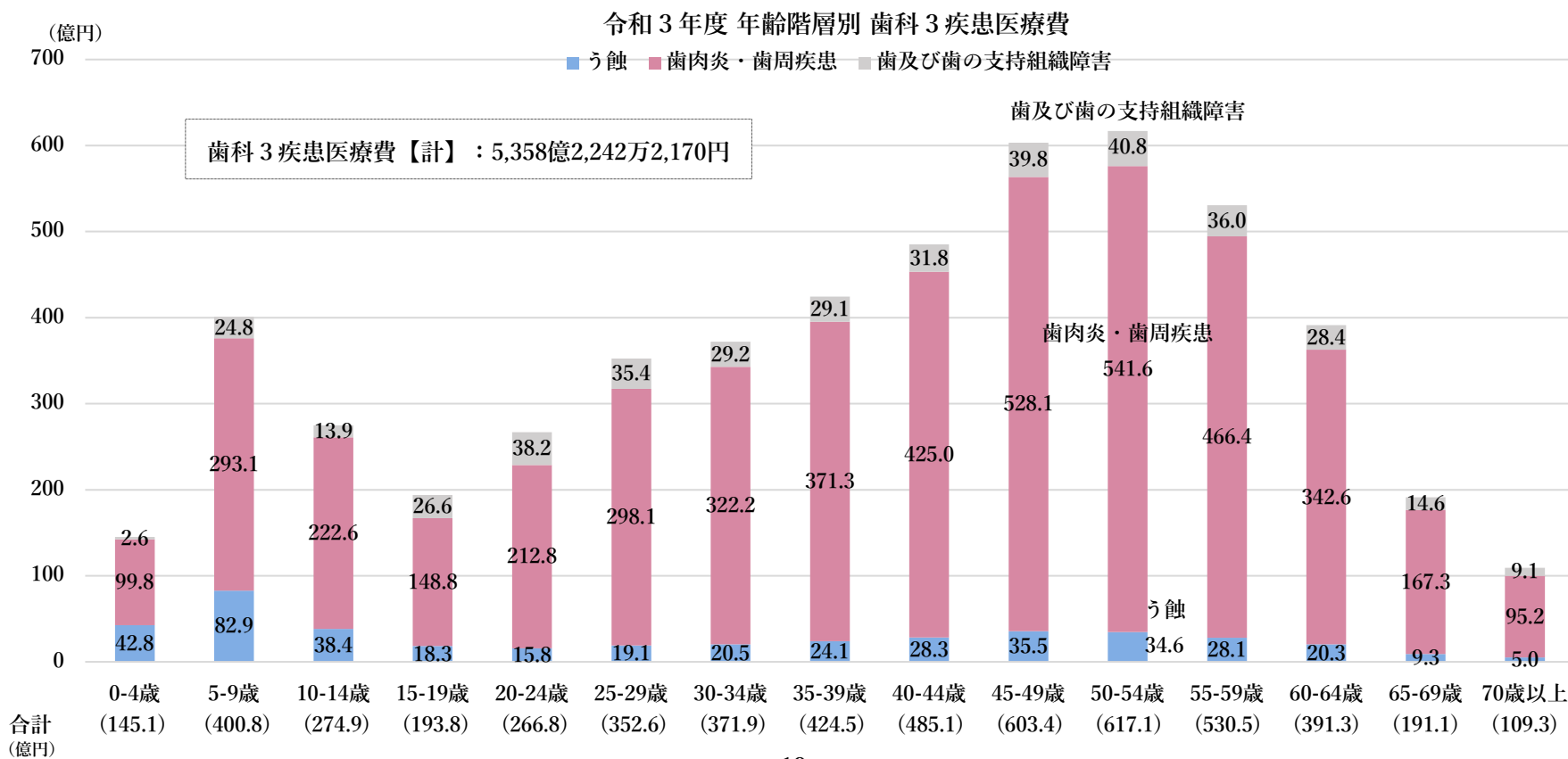
1,308 組合	受診者1人当たり 医療費(円) ²	加入者1,000人当たり 受診者数(人)	加入者1人当たり 医療費(円)
う蝕	10,358	12.5	1,556
歯肉炎・歯周疾患	11,971	116.1	16,677
歯及び歯の支持組織の障害	15,175	8.1	1,472

² 加入者1人当たり医療費=加入者1人当たり受診者数×受診者1人当たり医療費

(3) 年齢階層別にみた歯科3疾患医療費

① 医療費

- 総額（積み上げ）では50-54歳（617.1億円）が最も高く、次いで、45-49歳（603.4億円）、55-59歳（530.5億円）。
- 総額が最も高い50-54歳の構成をみると、歯肉炎及び歯周疾患が541.6億円と最も高く、次いで、歯及び歯の支持組織の障害：40.8億円、う蝕：34.6億円。



② 構成割合

○ 15歳未満では、う蝕の医療費が10%以上を占め、0-4歳：29.5%、5-9歳：20.7%、10-14歳：14.0%。

○ 10-14歳と25歳以降では、歯肉炎及び歯周疾患の医療費が80%以上を占め、55-59歳：87.9%と最も高く、次いで、50-54歳：87.8%。

